

平成20年度第4回 公立大学法人熊本県立大学教育研究会議 議事録

日時：平成20年9月16日(火)午後2時30分～午後4時00分

場所：公立大学法人熊本県立大学 大会議室

出席：学長 米澤 和彦
副学長 古賀 実
事務局長 富永 安昭
文学部長 三木 悦三
環境共生学部長 大和田 紘一
総合管理学部長 松岡 泰
学術情報メディアセンター長 山田 俊
文学研究科長 半藤 英明
委員 石井 博憲
委員 河原畑 廣
委員 坂本 元子

は、公立大学法人熊本県立大学教育研究会議運営規程第3条第1項の規定に基づく書面でrの意思表示による出席者である。

事務局：豊田事務局次長、井上学生サービス担当次長兼教務入試課長、馬場総務課長、稲葉企画調整室長、鉄戸学生支援課長、田中学術情報メディアセンター事務長、枝國地域連携センター事務長、上村主幹、田尻参事、林参事

1 開会（進行：豊田事務局次長）

2 学長挨拶

3 議事（議長：米澤学長）

(1) 審議事項

非常勤講師の採用について

事務局から、非常勤講師の採用について、資料1に基づき、「総合管理学部苗村辰弥准教授の逝去、環境共生学部食健康科学科榊田典治教授の入院加療及び環境共生学部食健康科学科大下喜子講師の休職に伴い、後学期において新たに非常勤講師を採用する必要がある。また、協力講座の協定先である地域流通経済研究所から講師を変更したい旨の申し出があったため、講師を変更する必要がある。いずれの非常勤講師も10月1日付けの採用としたい。」との説明があった。

審議の結果、非常勤講師の採用について、案のとおり議決した。

(2) 報告事項

熊本県公立大学法人評価委員会の評価結果について

事務局から、熊本県公立大学法人評価委員会の評価結果について、資料2に基づき、「第3回の教育研究会議において、7月24日に開催された平成20年度第1回熊本県公立大学法人評価委員会の概要について報告したが、8月6日に第2回熊本県公立大学法人評価委員会が開催され、業務実績評価に関する審議が行われた。平成20年8月13日付けで熊本県公立大学法人評価委員会から業務実績評価結果について本法人に通知があり、法人の中期計画は全体としておおむね順調に実施しているとの評価を受けた。」との報告があった。

入試広報の実施状況について

事務局から、入試広報の実施状況について、資料3に基づき、「平成20年度入試において、前年度比で志願倍率が低下したことを受けて、年度計画で九州各県に対する入試広報を充実することとしている。出張講義、学内見学、高校訪問、オープンキャンパス、学部・学科説明会、進学説明会及び進学ガイダンスの実施などの入試広報に取り組んでおり、今年度は高校訪問の回数を増やしている。また、志

願者のあった九州内の高校に対しては、何らかの入試広報を行うこととしている。熊本県公立大学法人評価委員会で、入試広報の効果測定もしてほしいとの意見が出されたこともあり、入試広報を行った高校からどの程度志願があったかを分析して、平成22年度入試に向けた入試広報の計画を立てていきたい。平成20年度入試に関して、オープンキャンパスと志願状況がどう関連するか考察したが、一定の相関が見られた。また、新生アンケートからオープンキャンパスは、入試広報の有効な手段であることが見てとれた。」との報告があった。

オープンキャンパス及び高大連携“SUMMER COLLEGE”の参加者アンケート結果について

事務局から、オープンキャンパス及び高大連携“SUMMER COLLEGE”の参加者アンケート結果について、資料4に基づき、「初めてオープンキャンパス及び高大連携“SUMMER COLLEGE”を同一日に開催し、参加者については、昨年度に比べそれぞれ約100名減少、約250名増加という結果となったが、アンケートの回収は昨年度並みであった。オープンキャンパスについては、参加動機として、全体では本学を進学先の候補のひとつであるとする割合が増加し、学校の先生に勧められたとする割合が減少している。最も参考となった催しが、在学生による説明や相談とする割合が対前年度で大きく伸びた。高大連携“SUMMER COLLEGE”については、参加動機として大学の講義を知りたいとする割合が高く、高大連携事業として理解されている表れと考えられる。オープンキャンパス及び高大連携“SUMMER COLLEGE”の同一日開催については、参加しやすかったとの意見が大半であった。自由記述については、肯定的な意見が多かった。」との報告があった。

平成21年度入学者選抜の志願状況等について

事務局から、平成21年度入学者選抜の志願状況等について、資料5に基づき、「総合管理学部自己推薦型入試については、募集人員200名に対して、志願者が230名となり200名を超えたため、まず、書類選考により200名に絞った。次に、第1次選考として9月13日に講義等理解力測定を行い、111名を選考した。第2次選考として9月14、15日に個人面接等を行っており、最終的に50名程度を合格としたい。また、大学院環境共生学研究科博士前期課程については、募集人員20名に対して志願者は17名で、前年度から2名減となった。試験は9月13日に実施済である。それぞれの合格者決定は、9月24日に開催される次回の教育研究会議において行いたい。」との報告があった。

学生クラブ登録会員の募集について

事務局から、学生クラブ登録会員の募集について、資料6に基づき、「学生のキャリアアップを図るため、学生クラブを立ち上げ現在会員を募集している。本学及び包括協定先のイベント等の情報を会員に提供して、参加支援を行っていく。学生は、活動状況をキャリアフォリオに記載できることになる。」との報告があった。

御船町との包括協定の締結について

事務局から、御船町との包括協定の締結について、資料7に基づき、「8月28日に御船町との包括協定調印式を本学で行った。本学の近くにあり、中山間地と平野部分が併存する日本の縮図的なテーマを持った町であり、積極的に連携して活動を進めていきたい。」との報告があった。

4 閉会